

62. 阪大のマチカネワニ-発見から伝説の龍までのお話

大阪大学 総合学術博物館 伊藤 謙

日本で初めて発見されたワニ類の全身骨格化石「マチカネワニ化石」は、今からちょうど60年前である1964年（昭和39年）5月に、大阪大学豊中キャンパスの理学部校舎の建設現場に露出した約45万年前の大阪層群の地層から、地元の化石愛好家の青年達により発見されました。

頭骨が約1m・全長が約7mのこの古代ワニは、巨大ワニの化石の発見ということだけでなく、古脊椎動物学研究的常識を覆す多くの発見をもたらしました。その1つは、産出した地層の花粉研究などから生息環境が温帯性気候であったことが判明したことです。今の日本と変わらない四季のある気候の中で、ワニが巨大化できた理由は未だ謎に包まれています。マチカネワニ化石は、ワニ類の進化を示す化石としても世界的にも重要な標本となっており、2014年には国の登録記念物となっています。

近年、このマチカネワニが、空想上の生き物である『龍（ドラゴン）』だったかもしれないという説が注目を集めています。約3000年前に中国南部に棲んでいたマチカネワニの近縁種が、ヒトと干渉していた事実が判明してきたのです。人と共存したマチカネワニのような巨大ワニを基に、龍という神話や伝説の生き物が創られた可能性が指摘され始めています。

演者は、今年の干支である龍にちなんだ展覧会『伝説の龍と史実の鱷 干支展「UTA ZOO～2024 辰～」』に協力するなどをしながら、マチカネワニをはじめする“伝説を科学する”面白さを伝える活動をしています。

略歴

伊藤 謙（いとう けん）

京都大学博士（薬学）、薬剤師、学芸員。大阪大学総合学術博物館 講師。国際日本文化研究センター 客員准教授（2021年度）。ナショナルジオグラフィック・エクスプローラー。大阪大学の至宝であるマチカネワニ化石の研究史を長く調査してきた。伊藤若冲の縁戚にあたり、アート研究も手がける。専門は、生薬学、本草博物学。

職歴

平成 23.6 ～平成 26.9	大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員
平成 26.10～平成 27.7	京都薬科大学助教
平成 27.8 ～令和 3.3	大阪大学総合学術博物館 特任講師（常勤）
平成 29.4 ～令和 4.3	大阪大学文学研究科 兼任教員
平成 30.4 ～	National Geographic Society Explore
令和 3.4 ～	大阪大学総合学術博物館 講師
令和 3.4 ～令和 4.3	国際日本文化研究センター 客員准教授
令和 4.4 ～	大阪大学人文学研究科 兼任教員
令和 4.4 ～	大阪大学理学研究科 兼任教員
令和 4.4 ～	大阪大学中之島芸術センター 兼任教員